

【血液検査 主な検査項目基準値(成人)】

指標	検査項目名		基準値		項目説明
肝臓	AST(GOT)	グルタミン酸オキザロ酢酸 トランスアミナーゼ	8~38	IU/L	肝臓、心筋など様々な臓器の細胞にある酵素で、肝臓の異常を調べる代表的項目。臓器や組織が損傷すると、血液中の値が上昇する。ASTは肝臓のみでなく、心臓や筋肉の疾患によっても高値になる。
	ALT(GPT)	グルタミン酸ピルビン酸 トランスアミナーゼ	4~44	IU/L	
	ALP	アルカリ性 フォスファターゼ	104~338	IU/L	肝臓、小腸に多く含まれ、肝臓から胆汁に排泄されるため、胆汁うっ滞があると高値になる。また、骨にも多く、骨異常のときも高値になる。
	LDH	乳酸脱水素酵素	106~211	IU/L	全身の細胞に含まれ、細胞の障害で高値を示す。特に肝臓、心臓、筋肉、血液の疾患で上昇する。
	LAP	ロイシンアミノ ペプチターゼ	30~70	IU/L	胆道から排泄される胆汁中に多い酵素で、胆汁うっ滞があると高値になる。
	ChE	コリンエステラーゼ	185~431	IU/L	肝臓のみでつくられる酵素で、肝機能障害で産生能が低下し、血液中の値が低下する。
	γ-GTP	ガンマグルタミル トランスペプチターゼ	16~73	IU/L	主にアルコールによる肝臓障害を調べる。結石やがんで胆管が詰まった場合などにも高値になる。
	T-Bil	総ビリルビン	0.2~1.2	mg/dl	赤血球中の血色素から作られる色素で、赤血球がたくさん壊れたり、肝臓た胆管に異常があると増加する。
	D-Bil	直接ビリルビン	0.0~0.3	mg/dl	
膵臓	Amy	アミラーゼ	42~114	IU/L	膵臓や唾液腺から分泌される酵素。特に膵アミラーゼは膵臓由来のアミラーゼを指し、膵臓に障害があると血液や尿の中に漏れ出てくる。
	膵Amy	膵アミラーゼ	18~53	IU/L	
心臓	CK	クレアチンキナーゼ	56~244 (男) IU/L 43~165 (女) IU/L		心筋梗塞や筋肉の疾患を調べる。健康であっても激しい運動などで値は上昇しやすい。
	CK-MB	クレアチンキナーゼ アイソザイム	0~15	IU/L	主に心筋に含まれる酵素で、心筋梗塞などで高値になる。
	トロポニンT		0.10以下	ng/dl	心筋細胞をつかさどる蛋白で、心筋梗塞などで高値になる。
腎臓	BUN	尿素窒素	8.0~20.0	mg/dl	腎機能を反映しており、腎機能が低下すると高値になる。
	Cre	クレアチニン	0.36~1.06	mg/dl	
	UA	尿酸	0.0~7.0	mg/dl	主に痛風の診断に有効な検査。肥満、アルコールの摂りすぎなどでも高値になる。
栄養	TP	総蛋白	6.7~8.3	g/dl	血液中の蛋白の総称。肝臓でも合成・腎臓での濾過が十分に行われないと低値になる。
	Alb	アルブミン	3.9~4.9	g/dl	総蛋白の60~70%を占める成分で、肝機能や腎機能、栄養状態の指標として評価される。
	Na	ナトリウム	136~147	mEq/L	体内の水分調節や、生命の維持に重要な役割を果たす成分。これらのバランスの変動を調べることで、体内での異常を推測する。
	K	カリウム	3.6~5.0	mEq/L	
	Cl	クロール	98~109	mEq/L	
	Ca	カルシウム	8.8~10.2	mg/dl	骨ミネラルの重要な構成成分であり、骨代謝異常で値が変化する。
	IP	無機リン	2.5~4.5	mg/dl	

脂質	T-Cho	総コレステロール	130~219	mg/dl	増えすぎると動脈硬化の一因となる。
	HDL-CHO	HDLコレステロール	40~70	mg/dl	善玉コレステロールと呼ばれる。動脈硬化の予防に必要なコレステロール。
	LDL-CHO	LDLコレステロール	65~139	mg/dl	悪玉コレステロールと呼ばれる。動脈硬化の原因のコレステロール。
	TG	中性脂肪	50~149	mg/dl	増えすぎると動脈硬化の一因となる。直前の食事の影響で値が変動しやすい。
糖尿	血糖		70~109	mg/dl	糖尿病などで高値になる。食事の影響を受けやすく、正常でも食後は高値になる。
	HbA1c (NGSP)	ヘモグロビンA1c	4.6~6.2	%	過去1~2ヶ月間の血糖の状態を反映する。
	IRI	インスリン	1.4~13.8	μU/ml	糖尿病の診断、治療、経過観察に重要な膵臓のホルモン。
血液	WBC	白血球数	3.59~9.64 (男) $10^3/mm^3$ 3.04~8.54 (女) $10^3/mm^3$		細菌感染や炎症で高値になる。免疫不全などでは逆に低値になる。
	RBC	赤血球数	4.00~5.52 (男) $10^6/mm^3$ 3.78~4.99 (女) $10^6/mm^3$		貧血の診断に必要な数値で、全身状態を知る手掛かりになる。
	HGB	ヘモグロビン	13.2~17.2 (男) g/dl 10.8~14.9 (女) g/dl		貧血の程度や種類の診断につながる検査。
	HCT	ヘマトクリット	40.4~51.1 (男) % 35.6~45.4 (女) %		
	PLT	血小板数	148~339 (男) $10^3/mm^3$ 150~361 (女) $10^3/mm^3$		血小板は出血時に血を止める作用を持ち、減少した場合には出血しやすくなる。出血傾向や貧血が見られる場合に必要な検査。
貧血	Fe	鉄	54~200 (男) μg/dl 48~154 (女) μg/dl		鉄欠乏性貧血などで異常値を示す。貧血の種類の判別のため評価される。
	TIBC	総鉄結合能	253~365 (男) μg/dl 246~410 (女) μg/dl		
凝固機能	PT活性	プロトロンビン時間活性	72.0以上	%	血液の止まり方、固まり方を調べる検査。止血という機能では、血小板とともに重要とされる。PTは肝機能の指標にもなる。
	PT-INR	国際標準化比	0.90~1.10		
	APTT	活性化部分 トロンボプラスチン 時間	24.5~39.3	秒	
	Fbg	フィブリノーゲン	150~350	mg/dl	
	ATⅢ活性	アンチトロンビンⅢ活性	75~125	%	
	FDP	フィブリン分解産物	0.0~4.9	μg/ml	
	DD	Dダイマー	1.0以下	μg/ml	
炎症	CRP	C反応性蛋白	0.30以下	mg/dl	炎症や組織の損傷で高値になる。
リウマチ	RF	リウマチ因子	0~15	IU/ml	慢性関節リウマチ、膠原病などを調べる。
感染症	HBs抗原		(-)		B型肝炎ウイルスの感染を調べる。
	HBs抗体		(-)		過去にB型肝炎ウイルスに感染したかどうかを調べる。
	HCV抗体		(-)		C型肝炎ウイルスの感染を調べる。
	梅毒TP		(-)		梅毒の感染を調べる。
	HIV抗体		(-)		エイズの原因ウイルスの感染を調べる。